

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバ累積出現数は増加しています

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは奥内沖で12月10日、12月17日ともに1.7個体/m³、12月23日に0.8個体/m³、久栗坂沖で12月19日に2.2個体/m³、野辺地沖で12月24日に2.3個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは奥内沖で12月10日に35.0個体/m³、12月17日に25.0個体/m³、12月23日に77.5個体/m³、久栗坂沖で12月19日に7.2個体/m³、野辺地沖で12月15日に5.5個体/m³、12月24日に6.3個体/m³見られました(表1)。

(3) マボヤ

ラーバが12月10日に奥内沖で4.2個体/m³、12月17日に12.5個体/m³、12月23日に2.5個体/m³、久栗坂沖で12月19日に3.9個体/m³、野辺地沖で12月15日に9.4個体/m³、12月24日に0.8個体/m³見られました。

卵が奥内沖で12月10日に10.0個/m³、12月23日に2.5個/m³、野辺地沖で12月15日、12月24日ともに1.6個/m³見られました(表1、図3)。

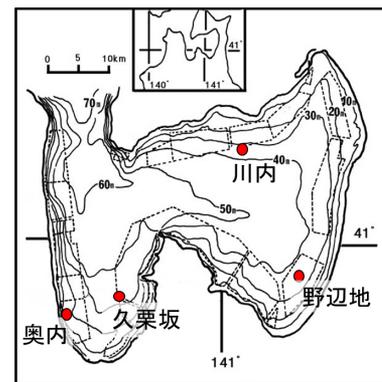


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキイガイ		マボヤ	
			イガイ	ラーバ	卵	
奥内沖	R6.12.10	1.7	35.0	4.2	10.0	
	R6.12.17	1.7	25.0	12.5	0.0	
	R6.12.23	0.8	77.5	2.5	2.5	
久栗坂沖	R6.12.19	2.2	7.2	3.9	0.0	
野辺地沖	R6.12.15	0.0	5.5	9.4	1.6	
	R6.12.24	2.3	6.3	0.8	1.6	

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は7℃台に低下している海域もありますが、多くの海域で9℃前後とユウレイボヤが産卵する水温になっています。

10月以降のラーバ累積出現数は、奥内沖で15.9個体/m³、久栗坂沖で8.5個体/m³、野辺地沖で10.9個体/m³と増加し、付着数が多くなる目安である5.0個体/m³より多い状況です。ラーバが多い海域では大量のユウレイボヤが付着し、出荷時期に作業効率が低下する可能性があります。

(2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

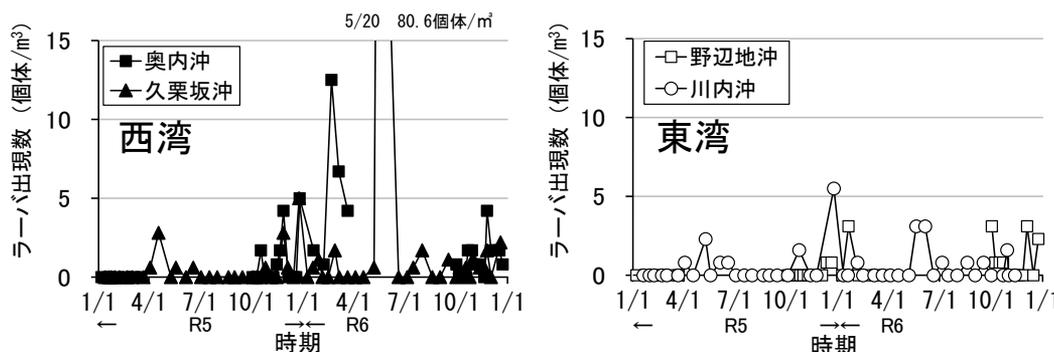


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和5年1月～令和6年12月)

・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

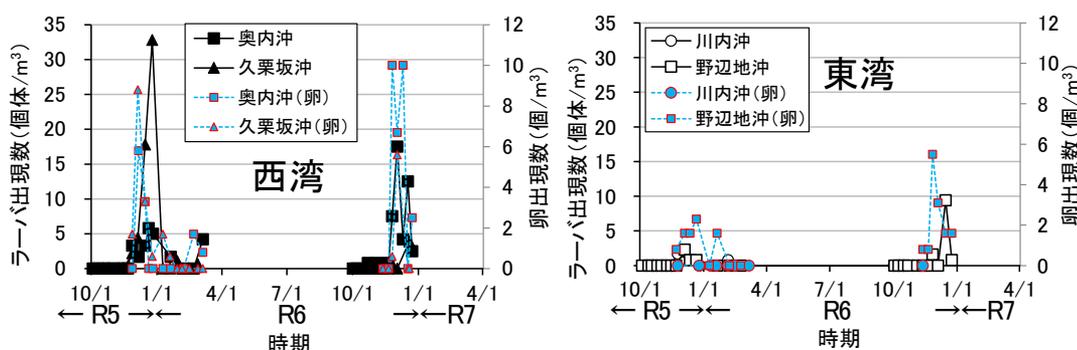


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和5年10月～令和6年12月)

・平成28年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾33個体/m³、東湾5個体/m³

3 マボヤ天然採苗情報

卵とラーバが出現していますが、マボヤのラーバは水温が9℃を下回ると活性が低下し、泳げなくなることが分かっています。水温が低下してきたので、付着は終盤と思われます。

